

高見順と福井つなぐ110点

五湖の生き物

事務所

シアチア国際パートナーシップ(I.P.S.I)定例。コイハス、ナマモなど三方五湖周辺に生息する魚や水鳥など約70種。高見順の五湖周辺に生

ルや記念日も記してある。

運転操作の検査器を体験する高齢者交通安全

■東尋坊での写真 ■「芦原泊」直筆ノート

親交の女性県に寄贈

県立図書館 あすから特別公開

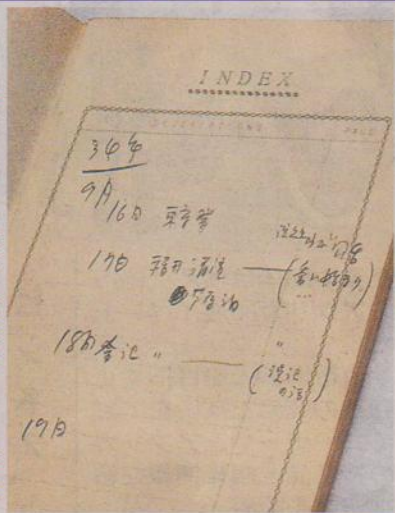
県は30日、旧三国町出身の作家、高見順の直筆ノートや写真など110点を、高見夫妻と親交のあった女性から寄贈を受けたと発表した。高見が講演のため帰郷したことを示すノートや東尋坊で撮影された写真があり、古里福井とのつながりがうかがえる。県教委の学芸員は「入手困難な品ばかり。福井に関連するものはさらに珍しく貴重」としている。(松井理恵)

高見は生まれてすぐに三国を離れて作家となったため、福井と関係のある資料は乏しい。県はこれらの寄贈品と、所蔵する原稿など22点の中から約60点を選び、1日から7月10日まで県立図書館で特別公開する。



作家高見順が帰郷したことを示す直筆ノートや写真など、県に寄贈されたゆかりの品。30日、県庁

〔昭和〕34年9月17日、福井講演「などと書かれた高見順の直筆ノート



西川知事がこの日の定例記者会見で明らかにした。寄贈したのは、高見順・秋子夫妻と親交が深く、遺品や資料を多く保管している川島かほるさん(神奈川県)。川島さんは「福井」として文学館(仮称)が県立図書館内に来年度開設される予定と知り、福井の文学振興に遺品が役立つことを望んでいた秋子夫人の遺志を酌んだという。

高見が52歳だった1959年の直筆ノートには、9月に北陸3県を講演のため訪れ「17日福井講演 芦原泊」と鉛筆で記している。「公会堂で講演 岡本太郎 高見

中島健蔵」という表記もあり、芸術家の岡本氏、

高齢者リーダーに事故防止活動要請

県警

高齢者交通安全リーダー連合会の会合が30日、県警本部で開かれた。高齢者宅を訪問し、交通事故への注意を促す活動の強化を県警が要請した。リーダーは各種イベントで交通安全



上で交通安全たり、反射料県警が県内委嘱している各地の同会の代表や約40人が村徹・同連前協議会)死亡事故が1件で力してほつ。県警の部長は「培能を發揮し導や啓発を県警の担当者宅の訪問を行い、安全を呼び掛け要請した。アクセルや反し車更

評論家の十に北陸を分る。東尋坊年、出版社した際、岩をとりえて福井新聞は坊のほか永り、大学の谷大三郎指っている。本籍地」